

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 千田小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
1	習得した知識・技能が活用できる資質能力の向上		新規	・思考したことなどを表現したり共有したりする『教科を相互に関連させた授業』を充実させる。 ・国語科の表現の学習が他教科の学習に生かすことができるよう、単元構成や実施時期の工夫をカリキュラムマップに明記し、「教科を相互に関連させた授業」を確実に実施する。	・「教科を相互に関連させた授業」の充実に対する、教員の肯定的評価を3以上(4段階評価)にする。 ・学習したことを生かして、発表したり、様々な媒体を生かして表現したりすることに対する、児童の肯定的評価を3以上(4段階評価)にする。	□教科を相互に関連させた授業についてはすべての教員が意識できており、授業を充実させることに対する評価は3.1であった。 ・学習したことをもとに発表することに対する児童の評価は2.8であったが、様々な媒体を用いて人に伝えることに対する評価は3.1であった。	4	4	・児童が表現することの必然性を持つようにするためにカリキュラムマップの見直しをさらに進めるとともに、これまでの実践例を集約し共有する。 ・児童が表現しようとするおぼろげや意図に相応しい媒体を選択する場面を、適切に設けるようにする。				
1	教員のファシリテート力の向上	★	新規	・教員自身のファシリテート力を向上させ、児童が「知りたい」「やってみよう」という気持ちを持ってやるような授業づくりに活かせるようにする。	・千田小のめざす「ファシリテート力」をつくり、教員全体で共有する。 ・教員が研修の中でファシリテーターの立場を経験できるように、教員が主体となった様々な形態の研修を行う。	・千田版「ファシリテート力」が向上したかについての教員の肯定的評価を3以上(4段階評価)にする。 ・「知りたい」「やってみよう」という気持ちが授業の中で実現できていると感じる児童を75%以上にする。	2	3	・千田版の「ファシリテート力」とは何かについて、教職員で議論を進める必要がある。年度末には、千田版「ファシリテート力」を完成させる。 ・児童の思いを実現できる環境づくりを引き続き行っていく。				
1	お互いを認め合う雰囲気のできた学校		新規	・校内で児童同士が相手思いや行動、相手を認める言葉は使えるようにする。	・思いやりのある行動で嬉しかったこと等を掲示しお互いを認め合える取組をする。	・学期に1回、振り返りをして、以前より周りの人に対して思いやりのある行動がとれた児童を80%以上にする。 ・学期に1回、以前より児童同士がお互いを認め合える雰囲気になっていると感じる教員を80%以上にする。	2	3	・「君それいいね」プロジェクトを通して、お互いを認め合う掲示や取組を継続して行っていく。 ・「君それいいね」プロジェクトを児童同士だけでなく職員にも広げていき肯定的な声掛けができる学校の雰囲気にしていく。				
1	体育の授業への意欲の向上		新規	・体育科の準備運動の改善により、意欲的に体育の授業に取り組み、課題を克服する。	・体育科の授業における準備運動を工夫することで、無理なく楽しく運動を行い、本校の課題である瞬発力、柔軟性の向上を図る。	・学期に1回体育の授業が楽しいという肯定的な回答を85%以上にする。 ・県平均値を上回る児童を柔軟性では50%以上、敏捷性では60%以上にする。	2	3	・体育の授業では、動画を活用した準備運動の取組を継続して行っていく。 ・授業を担当している職員にアンケートを取り、職員全体で取り組めるように授業改善を行う。				
1	自らの個性を發揮し、自ら挑戦する教職員	★	新規	・職員個々が、自らの強みや個性を理解し、目指すべき目標と行動を設定し、挑戦していく。 ・職員同士が互いに認め合うことで、職員のやりがいや働き甲斐などの自己有用感を高める。	・業績評価に「My Challenge」項目を設定し、自らの強みや個性を軸とした目標設定を行い、PDCAサイクルを進める。 ・「My Challenge」について、研修や交流、発信の場を設け、お互いに刺激し合い、認め合いながら個性を生かした挑戦を推進する。	・「My Challenge」研修実施(3回実施) ・「My Challenge」発信(個人年間2回程度) ・「個性が認められている」と感じる教職員の割合 前年度以上	3	4	・「My Challenge」交流会は、継続実施。取組についての交流を増やしていきたい。 ・たくさんの同僚に「My Challenge」を知ってもらうため、グループの工夫、各個人の取組を配信するなど工夫する。 ・応援するという姿勢で、同僚の取組を支えていく。				